

港湾振興便り



2026. 2

第225号

*:**

目 次

*:**

1 ポートエッセイ ー国際基幹航路減少への危機感ー
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 第15回中部みなとオアシス会議を「みなとオアシス浜名湖(湖西市)」で開催！
(中部地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)
- 津波対策事業見学会を実施しました
(近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)
- 志布志市市制施行20周年記念「志布志みなとセミナー」を開催しました
(志布志市 みなと振興課)

2 お知らせ

◇イベント名:北陸地方整備局 港湾・空港現場見学会

:

1 ポートエッセイ ―国際基幹航路減少への危機感―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:**

1月22日、衆院解散を翌日に控えた慌ただしい状況の中、自民党本部において自民党港湾議員連盟総会が開かれ、日本港湾団体連合会会長として私も出席した。

総会では、森山裕会長のご挨拶に続き、金子国土交通大臣からもご挨拶を頂いた。その後、ご出席頂いた佐々木国土交通副大臣、永井国土交通政務官のご紹介、港湾関係団体の紹介・挨拶と続いたのち、薩摩川内市の田中市長と阪神国際港湾株式会社の木戸社長から、それぞれ港湾整備・振興に関する意見表明が行われた。

木戸社長からは、「邦船大手3社のコンテナ事業を統合したオーシャン・ネットワーク・エクスプレス(ONE)が、2026年度から日本発欧州向け直行便における日本寄港を取りやめる。基幹航路において母船が日本に寄港しなくなることは、国際海上物流を他国に委ねることにつながり、経済安全保障の根幹に関わる深刻な問題である。外航船社の日本離れが一層進むことを危惧している。」旨の意見表明があった。

これは、日本港湾が「ハブ」から「スポーク」へと位置付けを下げられたことを象徴する出来事と言える。その後、出席議員からも同様の危機感を示す意見が相次いだ。実際、この30年間で日本港湾の国際的な地位は低下し、シンガポールや中国、韓国の港湾が圧倒的な存在感を示す中、基幹航路の寄港地として日本が選ばれにくい状況が続いている。

国土交通省の安部港湾局長からは、「本件は現在進められている日本成長戦略会議の港湾ロジスティクスワーキンググループにおける重要テーマとして掲げたい。」との発言があった。日本成長戦略会議は、17の戦略分野で官民連携による危機管理投資と成長促進を目的とするもので、その一つに港湾ロジスティクス分科会が設けられている。金子大臣のもとで十分な議論が行われ、国際基幹航路の維持・拡大と港湾ロジスティクス強化につながることを期待したい。

同日の夕方には、日本港湾協会主催の「ポート・オブ・ザ・イヤー2025」の表彰式に続き、日本港湾振興団体連合会も主催団体となる「港湾関係団体賀詞交歓会」が開催された。例年同様、多くの港湾関係者に加え、解散前日にもかかわらず多数の国会議員が参加し、会場は立錐の余地もないほどの盛況となった。新年早々、港湾に寄せられる高い関心と熱意をあらためて実感する一日となった。

:

2 トピック

:

●第15回中部みなとオアシス会議を「みなとオアシス浜名湖(湖西市)」で開催！

(中部地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

「みなとオアシス」の普及・活用による住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する“みなと”を核としたまちづくりを考える会議、「中部みなとオアシス会議」を令和8年1月28日(水)に開催しました。

当日は、静岡県、愛知県、三重県のみなとオアシス、港湾管理者、観光地域づくり法人(DMO)等の担当者約60名に参加いただき、基調講演、特別講演、そして「みなとオアシス浜名湖」、「みなとオアシス沼津」、「みなとオアシス下田」の活動報告を聴講いただきました。

各講演・報告に対する質疑の際には、聴講者から積極的に質問がされ、「他のみなとオアシスの取り組みや情報が得られる良い機会」と感想もありました。

中部地方整備局では、今後も「中部みなとオアシス連絡協議会」と共同で本会議を開催し、“みなと”を核としたまちづくり促進の取り組みを進めてまいります。



第15回中部みなとオアシス会議の様子

●津波対策事業見学会を実施しました

(近畿地方整備局 和歌山港湾事務所)

令和8年1月15日(木)及び21日(水)の2日間、和歌山下津港海岸(海南地区)において津波対策への理解促進を目的に海南市と共同で市民(自治会・自治防災組織等)を対象とした海上見学会を実施しました。

和歌山下津港海岸で進められている水門や護岸の整備状況に加えて、本港地区の耐震強化岸壁など港湾施設も見学してもらいました。

普段はあまり見ることができない海上からの見学とあって、「事業の完成時期は?」「護岸の高さはどれくらい?厚みが薄く見えるが大丈夫なの?」といった質問が見学者から挙がるなど、強い関心をもって見ていただくことができました。

今回の見学を通して、防災対策の重要性や命と安全を守る事務所のインフラ整備への理解を深めていただけたのではないのでしょうか。



見学会の様子

●志布志市市制施行20周年記念「志布志みなとセミナー」を開催しました

(志布志市 みなと振興課)

令和8年1月14日(水)、志布志市の市制施行20周年を記念して、志布志市で初開催となる「志布志みなとセミナー」(主催:志布志港湾振興協議会)を開催しました。

当日は、志布志市内外から、船社、物流、商社、製造業、周辺自治体等の100団体、212名の方にご来場いただきました。

セミナーでは、志布志港湾振興協議会の下平晴行会長(志布志市長)による主催者挨拶の後、官民関係者8名によるプレゼンテーションや講演が行われ、道路ネットワーク整備による志布志港の利便性向上に加え、同協議会や志布志市による輸出等への支援策、令和7年11月に改訂された港湾計画の内容について紹介があり、利用企業から志布志港に対する今後の期待が述べられました。

翌日には、現地視察を行い、志布志港や当市が整備する工業団地、地元の酒蔵等の市内観光地を紹介しました。

志布志市では、引き続き志布志港の利活用を図り、港を核としたまちづくりに取り組んでまいります。



(セミナーの様子)



(主催者挨拶と講演の様子)



(現地視察の様子)

